

令和2年度 第4回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ：農福連携の一層の推進について

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、農業に従事している福祉施設利用者の皆様、農福連携を推進している支援者の皆様と農福連携における課題などについて意見交換を行いました。

【日時場所】 令和3年1月20日(水) 午後2時30分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 福祉施設利用者、支援者 11名

(主な意見等)

- 障害者の就労支援だけでなく、失業者などの生活困窮者が社会復帰できる力を身につけるための農業訓練をする場を整備してもらいたい。
- 販路拡大のため、東京のアンテナショップで、宅配している商品を取り扱ってもらいたい。
- 農業者と福祉施設がお互いに情報交換ができる交流の場を設けてもらいたい。
- 販路や人材のマッチングなどについて、インターネットを活用したサイトの必要性を感じている。
- 工賃については、成果を適正に評価してもらいたい。

(知事(県)の主な発言)

- 農福連携推進センターの機能をしっかりと知ってもらうことが必要である。
- 福祉施設に参入してもらえよう、商品の販路を確保する必要性を感じた。
- 労働の成果に応じた所得が得られることは重要な原則であり、行政としてもしっかりと考えていきたい。
- 農業は、人を成長させる大きな可能性があることを改めて確信した。
- 職業訓練については、農業大学校で実施しているが、障害者にとっては今のプログラムは難しいところがあるため、今後どのようなやり方があるか考えていきたい。

